

グリーンサークル 48号

クローズアップ
活動団体紹介
講座紹介

多摩市みどりのかわら版

田村 薫
なな山緑地の会
2022年リース作り講座
野添 史央里

シロヨメナ



～クローズアップ～

多摩グリーンボランティア森木会 会長就任挨拶

～多摩の雑木林と一緒に楽しみましょう～

多摩グリーンボランティア森木会 会長 田村 薫



このたび歴史ある多摩グリーンボランティア森木会の第2代会長に就任いたしました田村薫と申します。2015年末、よこやまの道班での活動参加を皮切りに、鶴牧西みどりの会の立ち上げ、現在は初級講座と中級講座の講師役で会の活動に携わっております。

先代川添会長からの推薦を受け、ご期待に応えるべく引き受けることにしましたが、まだまだ分からないことだらけ、未知の世界です。いたらない点もごさいますが、皆様の助けをお借りしながら、森木会の発展、運営に貢献できるよう頑張っております。

会員の皆様は市内の各フィールドに散らばって活動しているため、今までなかなか顔を合わせる機会が少なかったかと思います。そんな会員同士の横のつながりを今後はもっと増やして、より活発で多彩な活動に繋げていくことができればと思います。

森木会の活動は、多摩市が掲げる健幸まちづくりを筆頭に、生物多様性の保全、深刻化する気候変動への取り組み、脱炭素型まちづくりなどとも関連しており、誇りを持って活動できる団体だと思っております。これらの活動が次の世代にも受け継がれ、広がっていけるよう頑張っていきたいと思います。皆様ご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。



植樹した木の手入れを行う田村さん。
初級講座では講師として指導にもあたっています。

以下、簡単な自己紹介です。

*森木会参加のきっかけ

2015年10月、よこやまの道で開催された里山勉強会「歩いて知ろう 聞いて学ぼう 里山の自然と保全活動」に参加しました。明治大学農学部 倉本先生の研究発表に強い感銘を受けたことがきっかけです。市民参加の森林保全活動が盛んな英国ロンドン郊外での活動参加報告はとても興味深いものでした。ロンドンとは言わずとも、自宅のすぐ近くに最高の環境が整っていることを知り、その日のうちに参加を決めました。

*家族

妻と子供三人。うち二人は成人。末の子も今年成人。

*少年時代

43年前、9歳のときに家族で都内から永山に移り住んできました。家のすぐ裏に当時「うら山」と呼ばれていた小高い丘と雑木林があつてその先は田畑が広がる農村地帯。そんな環境、風景に子どもながら興奮しました。放課後のフィールドはもっぱら「うら山」。秘密基地を作ったり、サワガニやホタルを捕まえたり、タヌキに遭遇したりと刺激的でワイルドな少年時代を過ごしました。みどりと関わりの原点です。

*山登りとの出会い

高校、大学、社会人に至るまで山中心の生活。岩稜、沢、雪、氷瀑と深山幽谷に入り浸っておりました。ヘルメットや金属製の装着はそのころから。結婚後、子育て中はファミリーキャンプと山歩きにシフト。子どもたちを背負って山を歩きました。

*長距離走

サッカーのレフリー時代、体力維持のため、2006年冬から始めたジョギング。すっかりはまってしまい、今でもほぼ毎日走っています。かつてはフルマラソン2時間台。多摩市のランニングパトロール隊所属。

*植物観察と野鳥観察

ルーペと双眼鏡を常に携行。多摩市内に飽き足らず、各地の公園や林を訪問して観察。お気に入りフィールドは多摩町田、川崎にまたがる丘陵地帯。花はフデリンドウ、鳥はジョウビタキ、樹木は決められません。

*書店&図書館巡り

多読、乱読、積ん読です。中心は海外文学。影響を受けたのはロシア東欧文学とモーリス・ドリュエンの「みどりのゆび」。みどりに関連する本もいろいろお薦めできますよ。ちなみに一押し絵本は、いせひでこの「ルリユールおじさん」「大きな木のような人」です。

～活動団体紹介～

現代の里山さがし なな山緑地の会 中山 茂樹

「多摩市に里山があった！」なな山のポスターのキャッチコピーである。では、なな山緑地は、今どんな里山なんだろう？そんな視点でなな山を紹介してみたい。

里山としてのなな山は、薪炭林であり落ち葉から腐葉土を作りと農家の生活を支える役割を担ってきた存在である。しかし今、その役割の多くを失っている。なな山を里山というには現代の我々の生活の中で新たな役割を得る必要があるのではないかと考えている。

なな山は、住まい（里）に近いことから、便利な位置にある。立地は好い。住宅地に囲まれていながら、一度山に入ればその景色は自然を身近に感じさせてくれる樹林に覆われている。

なな山を巡ると景色に変化がある。冬の西の山は、コナラ、ヤマザクラなどの落葉と下草刈りにより創り出される風景がある。谷状地に植林したスギ・ヒノキの針葉樹との対比も出来る。中の山の雑木林は、樹種も多く、ヒサカキ・カクレミノなどの常緑樹があり風景の濃淡が深い。東の山は、シノダケ林の間伐を進めて来たことから清々しい風景となっている。場所毎に季節の変化があり緑地内を巡ること自体が楽しい。

なな山では「なな山の植物」という小冊子を作っている。山野草の種類が豊かだ。春になれば、日替わりに様々な山野草が咲き、日々の変化に触れることが出来る。冬には、実を付けるものも多い。観察していて飽きることがない。

しかしそれだけでは、里山とはいえない。里山の恵みを生活の中に取り込めないかと考える。

西の山は、これからのシーズン子供たちの声がこだまする。草刈りをした後の落ち葉の積もった山の斜面をソリ滑りしてシガラに突っ込む。小学校の恒例行事になっている。

なな山では定例活動日に加えて火曜日に木工クラブの活動を行ってきた。木工の他に最近チカラを入れているのがシノダケ・ヒンメリ作りとコウヤボウキを使った箸づくりだ。いずれも徐々にだがファンが増えている。クラフト系の作業も里山の恵みを生かす活動と考えて取組んでいる。

なな山には畑がある。里山の恵みである腐葉土による無農薬・有機農法を続けている。実生から育てたクヌギ・コナラなどの苗の育成もしている。環境教育の場に活用できるに違いない。

里山の活動といえば伐木と草刈りがメインである。毎年繰り返し作業が必要である。なな山には手つかずの場所もたくさんある。今年は大学生が手伝いに来てくれた。山に入って作業をして汗をかくことは楽しい。里山での作業を気軽に一日体験で楽しんでもらえないだろうか。

今年なな山では、どんと焼のあんこ（燃え草）として伐木した丸太を提供し、青少協のみなさんと薪作りをした。これまでも多摩めかいの会の材料のシノダケ採取の場所としてなっている。地域との繋がりもある。使われてこそその里山である。

現在も里山さがしは続いている。

【なな山緑地の詳しい情報は、下のQRコードから】

QRコード

NANAYAMA GREEN VOLUNTEER
なな山緑地の会
東京都多摩市初音にある園山「なな山緑地」でのボランティア活動を実施します。

NANAYAMA GREEN VOLUNTEER
なな山緑地の会
なな山の植物

NANAYAMA GREEN VOLUNTEER
なな山緑地の会
シノダケ・ヒンメリ

シノダケ・ヒンメリ作り
コウヤボウキを使った箸づくり

～講座紹介～

2022 年クリスマスリース作り講座 森木会リース作りグループ 櫻井 悦子

今年で10回目になるリース作りです。コロナ禍で3年ぶりに講座を開催しました(12月3日、4日の二日間)。勿論以前のように多くの方にご参加頂くのは無理。そこで2日間に分けて、初日は講座、2日目は材料配布のかたちを取り80人の方々に楽しんで頂けたかなあ～と思っています。

材料は基本、多摩市内の雑木林、公園でとれる木の葉、植物を一年かけて集めてそれをみんなで加工

し提供しています。現在12名がリースグループに関わっていますが、多くは多摩グリーンボランティア森木会のメンバーの陰の力が大きいことも講座の支えです。日頃、公園を整備する中で、リースの飾りに出来るかしら？木の葉などどう加工しようか等、知恵を巡らせ提供する側も楽しんでいます。

一昨年、昨年と材料配布で凌いでいたのですが、参加者反応がわからずにいましたが、今年は講座を対面で開催出来た事で材料は同じでも作り手の思いで個性あふれるそれぞれのリースを観ることができました。やはり対面は良いと痛切に感じました。

講座が終わるとすぐに新しい年に向けて材料集めが始まります。参加される方々の笑顔に励まされまたがんばろう！！の気持ちで一年がスタートします。そして年末にはたくさんの笑顔に出会える事を願っています。

リース作り講座

毎年12月第1土曜日に講座を開催中。
多摩市内の雑木林から集められた様々な恵みによって彩られる、自分だけのリースを作りませんか。



スタッフミーティング



今年も華やかです！すてきな作品に出合えそう。



すてきな作品量産中↑



「私と“みどり”について、つらつらと…」

多摩市 環境部 公園緑地課 野添 史央里

令和4年(昨年)10月に公園緑地課へと異動してまいりました野添と申します。

私自身は、鹿児島生まれ鹿児島育ちで、大学を機に東京へと上京し、大学時代には多摩センター駅周辺をほぼ毎日利用しておりました。その後、平成29年4月に多摩市へ入庁し、この約5年半は市民課にて住所変更手続き等の窓口対応に従事しておりました。

公園緑地課の仕事では、入庁時から多摩市に住んでいるものの、恥ずかしながら多摩市の公園を全く知らず、業務のなかで知識を吸収する日々を過ごしています。最近ですと、市民の方より「UFO 公園」というワードを聞き、先輩に尋ねたところ首をかしげられることがありました。その後、実は、貝取第5公園にある「日時計」のことを示していたとわかり、地域の方から日頃よりそのような呼ばれていることに、多摩市民の公園に対する愛着を感じた瞬間でした。

さて、自分事が続きますが、“みどり”にちなんだものということで、私が好きな花を紹介いたします。

皆様は、「ギガンジウム」という花をご存知でしょうか。茎が太く、紫陽花のように小さい花が集まって球体状に花を咲かせるものです。私は、中学時代に華道を習っておりましたが、茎を切ったときにそこから朱色の液が出てきて、水が段々色づく場面を見て、どこからその色を出しているのかと、驚きとともに自然の不思議というものを感じました。なお、生け花ではとても存在感があることから、作品全体に統一感と一層の華やかさを出し、当時よく目を惹かれたものでした。(ただ、個人的には、他の花に比べて茎が太いので、剣山に刺しやすいというとても不毛な理由でも好きでした。)ちなみに、液は衣服等につくと、とるのがほぼ不可能ですのでご注意ください。

元々そういった“変わったもの”が好きなこともあり、この間、グリーンライブセンターにて教えていただいた「シモバシラ」には、寒い日の朝にしか見られないということで、貴重なときに遭遇でき、大変感動しました。もし、他にもそういった花がご

ざいましたら、是非とも教えてくださいと幸いです!

さて、今年は、いよいよ多摩中央公園やグリーンライブセンターの改修が始まるにあたり、より一層、多摩中央公園エリアが大きく変化していきます。私自身はこの職場で約3か月という新参者ですが、農の要素を取り入れた(仮称)連光寺六丁目公園の試験事業や、大栗橋公園の社会実験に関わったなかで、「市民とともにつくるみどり」を市民が日常的に意識してもらうためにも“場”と“発信”が重要であると感じました。改修後には、みどりの活動が市民の日常により一層触れる機会が増え、みどりをきっかけとした人と人との関係をつなぐ場として活用されればよいと考えております。私も一職員として、



シモバシラ

少しでもお役に立てるよう努めてまいりたいと思います。今後ともよろしく願いたします。

表紙の絵

「シロヨメナ」絵・内城葉子

秋の野菊の1種で紫のヨメナと違い白い花を咲かせます。葉は大きく長めで鋸歯も目立ちます。

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信

グリーンサークル48号

発行日: 2023年1月31日

編集・発行責任:

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>